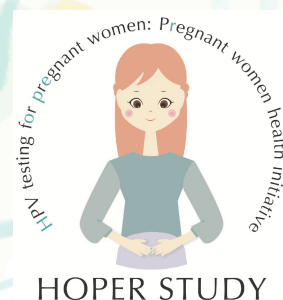


妊婦のHPV検診の有効性を検討する研究への参加のお願い

子宮頸がんは20歳代でも罹患することがある病気です。本邦では毎年約1,1000人が子宮頸がん罹患し、約3,000人が亡くなっています。子宮頸がん検診は無症状の前がん病変の発見もできるため、日本では20歳から受診が推奨されています。

子宮頸がんの多くはヒトパピローマウイルス（HPV）の感染が原因とされています。従来の検診は細胞の形を評価する細胞診でしたが、一部の自治体ではHPV検査による検診が導入されています。

妊娠中の検診としてHPV検査の有効性を示す大規模なデータがなく、本研究でその検証をいたします。どうぞ、ご協力をお願い申し上げます。

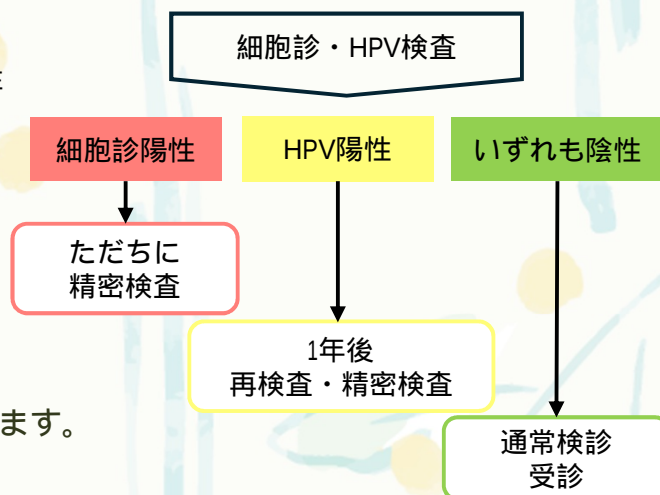


【対象】30歳以上の妊婦

* 妊娠週数や子宮頸部異形成や子宮頸癌の既往により参加できないこともあります。

【参加手順】

1. 研究参加同意書の提出
担当医へご提出下さい。
2. 子宮頸部細胞診・HPV検査
1回の検査を受けて頂くと、両方の検査ができます。
結果は次回以降の外来でお伝えいたします。
3. Webアンケートへの回答
同意書のQRコードをスマートフォンやPCで読み取りご回答ください。（所要時間10分）
アンケートにご回答いただくと、後日ご希望された全員にAmazonギフトカード500円分を電子メールでお送りします。
4. 検査結果に伴う追加検査の受診
細胞診陽性の場合：妊娠中に追加の精密検査が必要です。
細胞診もしくはHPV検査が陽性の場合：検査から1年後に再検査・精密検査があります。



詳細は同意書をご参照ください。

（問い合わせ先）

横浜市立大学医学部 産婦人科学教室

「妊婦のHPV検診の有効性を検討する子宮頸部細胞診との単群比較試験」

事務局

（研究代表者）横浜市立大学附属病院 産婦人科 水島 大一

（問い合わせ）yokohama.hpv.office@gmail.com